

「環境的に持続可能な交通利用に影響する

地域環境意識の構造分析」

研究者名:川本清美
所属・役職:北海道教育大学・准教授

番号:
T-2-2

研究分野
理・工学系
土木工学

研究キーワード
温暖化対策、地
ソーシャル・キ

共同研究者:-

背景·目的

都市における温暖化対策のひとつとして、環境的に持続可能な交通(Environmentally Sustainable Transport: EST)を導入していくことが有用とされている。路面電車は、国内外で注目されているESTのひとつであり、各地で導入が検討されている。しかしながら、多くの地方都市では依然として自動車依存が高く、地域固有の市民意識を活用しながら路面電車利用を促進していくことが必要である。本研究の目的は、ソーシャル・キャピタル(SC)を含む地域環境意識が路面電車利用に影響する構造を明らかにすることである。

研究の
成果

- 1) 地域環境意識は、SCが環境配慮・まちづくり意識に影響する構造である。
 - 2) 地域環境意識は、今後路面電車を利用しようという意図に直接的な影響を与える。この路面電車利用意図は路面電車選択行動を促進する構造である。
 - 3) 路面電車利用意図の規定因はインフラ整備水準によって異なる。従来型インフラの場合、路面電車利用意図の規定因は地域環境意識である。新型インフラの場合、路面電車利用意図の規定因は地域環境意識、実行可能性評価とコスト評価である。
 - 4) 新型インフラ整備は利用者の路面電車への関心を高めるとともに、コミュニティを超えた社会参加への関心も高めている。
 - 5) 自分専用の自動車を所有しない行動タイプでは、環境配慮意識とSCが今後の路面電車選択に影響を与える。

将来
展望

分析結果からは、地域環境意識を活用した路面電車選択行動育成への提言を見出すことができた。これらの提言は、都市交通計画に温暖化対策を盛り込む際への利活用などが期待できる。自動車に依存できなくなる高齢化社会を迎える北海道では、ESTIに代表される公共交通の活用が不可欠である。地域環境意識を活用する方策は、これらの課題解決への一助となる。

図表・グラフ・写真・ポンチ絵・フロー図：

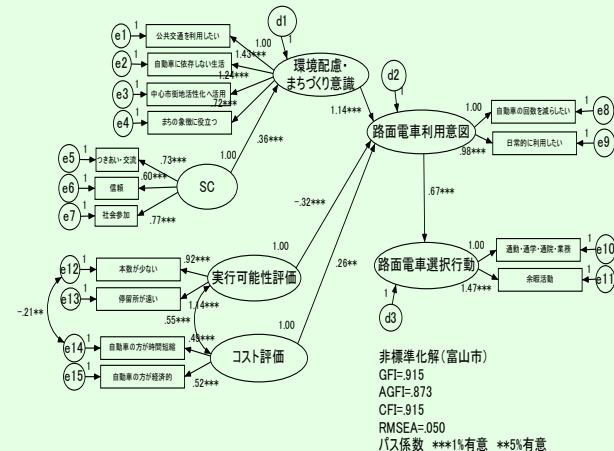
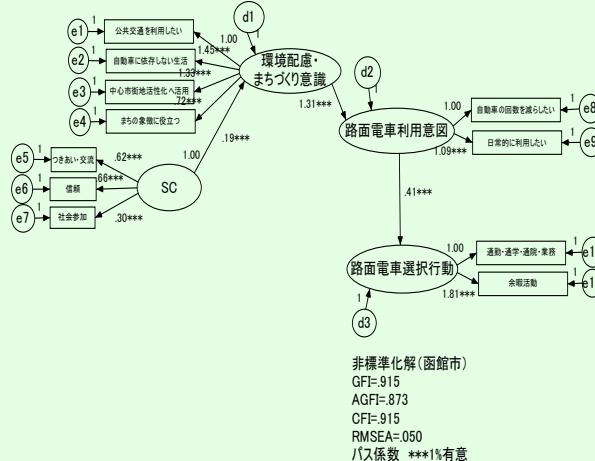


図- 井分散構造分析結果(函館市:従来型インフラ)

図- 共分散構造分析結果(富山市:新型インフラ・BT)